

千葉県印旛郡栄町 人口ビジョン及び 第3次総合戦略

概要版



令和7年3月

栄町

人口ビジョン

I. 人口の現状分析

町の人口は、昭和 53(1978)年のニュータウンの整備開始とともに急速に増加し、平成 7(1995)年には 25,615 人となりましたが、その後減少傾向が続き、令和 2(2020)年には、20,127 人となっています。(国勢調査人口による。)

総人口の推移に影響を与える自然増減については、昭和 63(1988)年以降、ほぼ横ばいで推移していましたが、平成 14(2002)年以降は死亡数が出生数を上回る自然減の状態が続いています。

社会増減については、平成 9(1997)年までは社会増で推移し、平成 10(1998)年以降、社会減が続いていましたが、定住・移住施策を推進してきた効果により、令和 4(2022)年に再び社会増に転じています。

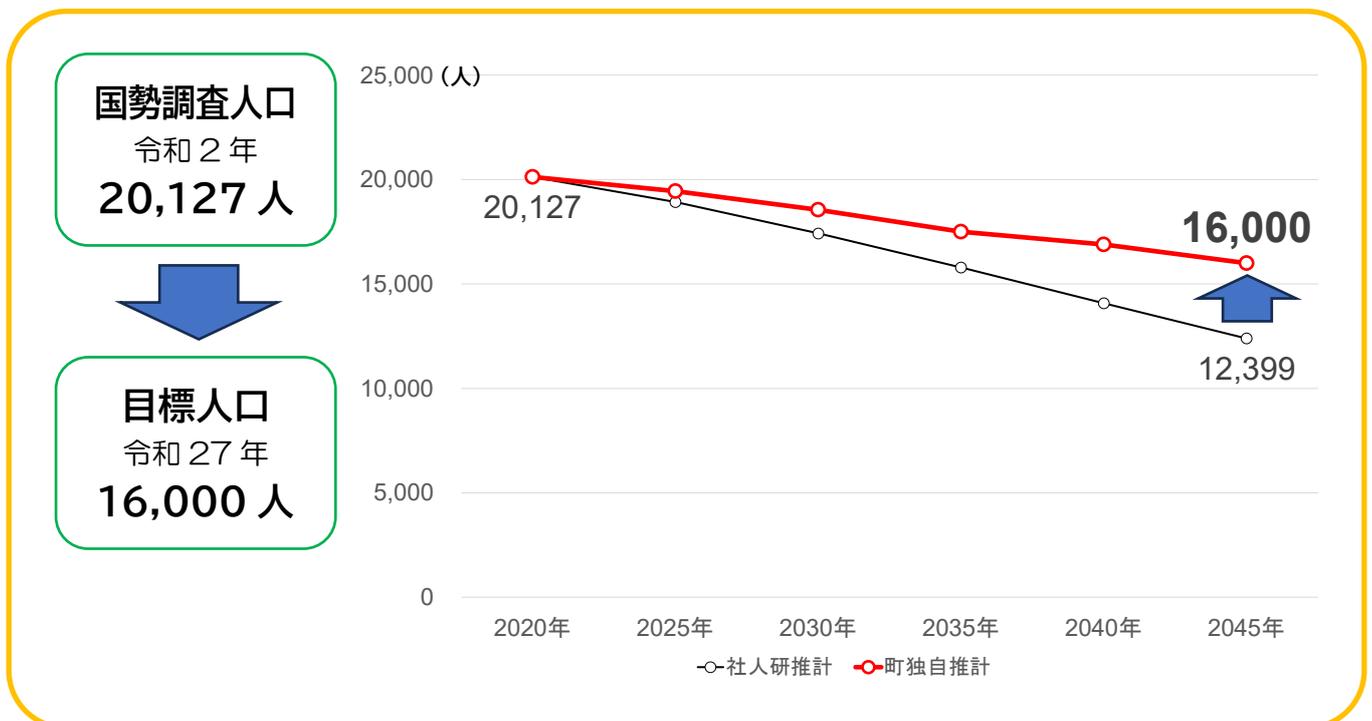
年齢階級別の人口移動では、20~30 歳代の若年層において大学等への進学や就職・結婚に伴う転出が目立っています。

したがって、出生率の上昇につながる施策や社会減を抑制する施策を速やかに講じていくことが、人口の維持に向けた町の喫緊の課題となっています。

II. 人口の将来展望

国立社会保障・人口問題研究所(以下、「社人研」という。)の推計では、町の将来人口は、概ね 20 年後の令和 27(2045)年に 12,399 人程度まで減少すると見込まれています。

一方、今後、成田空港の機能強化の影響をうけることが見込まれ、そのことで、人口減少傾向が緩やかになることが期待されています。町では、その影響を確実に受けとめ、人口減少を緩やかにする取組を行うこととし、目標人口を令和 27(2045)年：16,000 人と設定します。



第3次総合戦略

I. 「まち・ひと・しごと創生」への基本的な考え方

町は、町民のウェルビーイングの向上を地域ビジョンに掲げ、「幸せを感じられるあたたかいまち」をつくり、住みたい・住み続けたいまちとなり、若い世代の転入促進や転出抑制されることで、「持続可能なまち」を目指すことを、町全体で取り組む決意をいたしました。

また、成田空港の機能強化や地方移住への関心の高まりなどのチャンスを逃さないためにも、第2次総合戦略で掲げた「こども・子育て施策」「産業活性化施策」「定住・移住施策」を主軸とした3本の戦略を活かしつつ、町民の関心が高い事項である災害に強いまちづくりやデジタルの力の積極的な活用による「防災・減災及びDX関連施策」を加えた4つの戦略で、地方創生の深化に取り組むこととします。

II. 施策の方向性

1. 地域ビジョン「幸せを感じられるあたたかいまち」

行政と町民が立場を問わず協力し、地域全体で連携することで、こどもから高齢者まで“ひと”と“ひと”のつながりが生まれます。これによりウェルビーイングが向上し、心豊かで安全・安心に暮らせる町が実現します。このような町は、町民だけでなく、町外の人々や若い世代からも選ばれる住み続けたいまちとなります。

2. 基本目標 ～持続可能なまちをつくる～

「こども・子育て施策」「地域経済の活性化施策」「定住・移住施策」「安全・安心に暮らせる施策」によって、町民がいつまでも住み続けたい、若い世代や町外の人からは住みたいと思われる持続可能なまちをつくります。

3. 総合戦略の基本的方向

こどもまんなかの栄町をつくる

●こどもをまんなかに捉え、地域ぐるみで子育てを応援し、こどもたちを見守る社会になることで、こどもたちが安心して暮らすことができる環境が整い、若い世代が安心して結婚・出産に踏み切れる栄町の実現を目指します。

地域特性を活かし、産業が活性化した栄町をつくる

●町の産業振興拠点である「ドラムの里」が核となり、農業や地域の商店等の事業者が持続的に発展していくため、農商工親それぞれが連携することで新たな価値を生み出し、地域の稼ぐ力の向上と企業誘致により新たな雇用が創出される栄町の実現を目指します。

若い世代をはじめ誰もが住みやすい栄町をつくる

●成田空港の機能強化といった好材料を活かすため、市街地整備や空き家の有効活用による人口密度の維持と併せ、駅を基点とした公共交通ネットワークを形成することで、誰もが住みやすい栄町の実現を目指します。

安全・安心な暮らしを守り未来へ持続する栄町をつくる

●災害に対する対応やデジタル技術の活用など、新たなニーズに対応したまちづくりを進め、町民の安全・安心を守るとともに、積極的に町の情報を発信することで町内外から選ばれる栄町の実現を目指します。

III. 計画期間

令和7（2025）年度から令和11（2029）年度までの5年間とします。

IV. 総合戦略の内容

総合戦略1

こどもまんなかの栄町をつくる

1. こどもまんなか社会の実現

(1) 子育てしやすい環境づくり

「こどもまんなか社会」をつくるため、地域が一体感を持ち、こどもたちが安心・安全に過ごせる居場所を創ることで、安心して子育てができる環境づくりとコミュニティの活性化の両立を図ります。

また、こども・若者が権利の主体と捉え、こどもの声を施策へ反映するとともに、自ら考えチャレンジする取組を支援します。



(2) ライフステージを通じた支援

包括的な相談体制や仲間づくりへの支援、女性のキャリア形成が図れるよう「共育て」への働きかけ、経済的な支援など多面的な支援を通じて、安心して結婚・出産に踏み切れるよう支援を行います。

(3) 保育・一時預かり環境の整備

子育て世代の柔軟な働き方の達成や子育て世代の育児疲れや不安を解消できるよう、地域による一時預かり（見守り）の充実や新たに開始することも誰でも通園制度への対応を進めていきます。

重要業績評価指標 (KPI)	●年少人口の割合	R5 : 8.0% (1,574人)	⇒	R11 : 6.3% (1,174人)
	●保育所待機児童数	R5 : 3人	⇒	R11 : 0人
	●キッズランドの延べ利用者数	R5 : 8,232人	⇒	R11 : 10,000人

2. こどもが安心して暮らせる環境づくり

(1) こどもたちが犯罪や事故に遭わない環境づくり

増加する犯罪からこどもたちを守るため、日頃から地域一体となって、こどもたちを見守る意識の醸成と危険箇所の解消によるソフトとハードの両面から対策します。

また、近年増加するインターネットを通じた犯罪・トラブルからこどもを守るため、SNSの使い方などの情報リテラシーの向上を目指します。



重要業績評価指標 (KPI)	●犯罪認知件数	R5 : 110件	⇒	R11 : 80件
	●交通事故件数	R5 : 20件	⇒	R11 : 20件

3. こどもが成長する学校・地域づくり

(1) 地域と連携した教育の推進

地域住民や専門人材の活用による体験型の学習や企業と連携したキャリア教育などを通して、地域への愛着を育みながら、表現・コミュニケーション能力の向上などの資質や能力の向上を図ります。

(2) これからの社会に必要な学びの提供

ICT教育、情報活用能力や国際理解など新たな教育課題への対応や、児童生徒の理解度や到達度などの個に応じた学習を支援することで、社会の変化に対応できる児童生徒を育成します。

(3) 教育環境の整備

計画的に学校施設の改修・整備を行うとともに、GIGAスクール構想に対応するICT環境の整備や一人一台端末の保守・運用などにより、児童生徒が学習に専念できる環境を創ります。

重要業績評価指標 (KPI)	●県標準学力テストの県平均を上回った各学年教科数の割合 小・中学校各学年実施全教科	R5 : 35%	⇒	R11 : 50%
	●中学校在籍時までの英検3級合格児童・生徒の割合 中学3年生	R5 : 34.1%	⇒	R11 : 50%
	●児童・生徒と向き合う時間が確保されていると感じる教員の割合	R5 : 95%	⇒	R11 : 100%

1. ドラムの里を中心とした地域経済活性化の拠点づくり

(1) ドラムの里の再整備

ドラムの里は「千葉県立房総のむら」に隣接する好立地にあり、町内外からの多くの方が訪れる町の玄関口となっています。町の様々な商品や町の情報がドラムの里に集い、農商工観の連携を推進することで、ドラムの里が何度も足を運びたくなる場となり、地域経済の好循環を生み出す産業振興の拠点となることを目指します。



重要業績評価指標 (KPI)	●ドラムの里におけるイベント実施数	R5：5回	⇒	R11：8回
	●独自商品の開発数	R5：13品	⇒	R11：15品
	●ドラムの里 観光入込客数	R5：60,618人	⇒	R11：120,000人

2. 持続可能な農業を営める栄町づくり

(1) 生産者の所得向上への取組

特産品の圃場拡大や新たな商品の開発、無農薬化へ向けた取組などを支援し、生産規模の拡大や農産物の価値向上を目指すことで、生産者の所得向上を目指します。



また、特産品のPR活動を進め、栄町産商品の購買者の増加や販路の拡大を目指します。

(2) 多様な担い手の確保

地方移住のきっかけや生きがいづくりなど、ライフワークとして農業に関わる多様な担い手を確保することで、経営耕地面積の減少が著しい畑の維持や集積が困難な小規模な農地の活用などを図ります。

(3) 認定農業者などの中心経営体への支援

中心経営体が効率的に経営していく環境を整備し、農業を生業として選択できる耕作規模を実現するため、農地集積等の基盤整備の実施や生産規模拡大に必要な機械設備の導入を支援します。

重要業績評価指標 (KPI)	●黒大豆関連商品販売額	R5：40,960千円	⇒	R11：60,000千円
	●黒大豆の圃場等の面積拡大	R5：11ha	⇒	R11：16ha
	●6次化商品数	R5：21品	⇒	R11：30品
	●認定農業者数	R5：42人	⇒	R11：55人

3. 将来に向けて商工業が発展した栄町づくり

(1) まちなか商店の活性化

空き家・空き店舗の有効活用やスタートアップ支援を強化するとともに、商工会と連携した創業や事業承継の相談体制の構築や、デジタル化など生産性の向上や雇用拡大につながる取組に対する支援制度を検討し、商工業の活性化を図ります。

また、特産品・農産物等を活用した商品の開発や農業者と商業者の連携を促進し、ドラムの里やイベント広場を活用しながらPRを強化します。

(2) 企業が立地・増設しやすい環境整備

昼夜間人口比率を改善し、雇用や税収を確保するため、工業団地の拡張や幹線道路沿道等の土地利用転換を図るとともに、インセンティブの付与を検討し、県や金融機関等との連携による企業が立地・増設しやすい環境をつくります。



また、求人情報を発信し、雇用の確保に繋がるよう支援します。

重要業績評価指標 (KPI)	●創業・起業・事業継承件数	R5：60件（R1～R5年度の累計）	⇒	R11：80件
	●空き店舗の活用件数（累計）	R5：6件（R1～R5年度の累計）	⇒	R11：10件
	●企業誘致数（累計）	R5：1件（R1～R5年度の累計）	⇒	R11：1件
	●矢口工業団地内企業の雇用数	R5：386人	⇒	R11：450人

4. 町を訪れる観光客を増加させ地域経済の活性化を図る栄町づくり

(1) ドラムの里を中心とした観光振興

千葉県立房総のむらと連携し、コスプレや日本文化などを体験できるコンテンツを積極的にPRし、観光客や家族連れなど様々なターゲットにリーチすることでドラムの里を入り口とした観光客の増加を目指します。

また、ドラムの里に町の商品や情報が集い、発信することで町全体への波及や観光客の消費額の増加を目指します。



(2) 地域間で連携した情報発信

近隣の成田市を例に挙げると、日本の空の玄関口である成田空港や、県内有数の観光客を誇る成田山新勝寺、大型のショッピングモールを有しています。成田空港圏や北総地域などの近隣市町と連携し、イベントや事業に参加することで、より多くの方々に栄町の情報を発信し、観光客を増加させます。

(3) 観光資源の有効活用

文化財や水辺環境を活かしたレジャー体験、サイクリングロードなどの町が有する観光資源の活用とPRにより、新たな観光客の誘致を目指します。

重要業績評価指標 (KPI)	●コスプレの館の収入	R5 : 4,981 千円	⇒	R11 : 6,000 千円
	●町内観光客数	R5 : 301 千人	⇒	R11 : 400 千人
	●成田市等との新たな連携事業	R5 : 0 件	⇒	R11 : 1 件

総合戦略3

若い世代をはじめ誰もが住みやすい栄町をつくる

1. 若者が転入しやすい栄町づくり

(1) 成田空港の機能強化を見据えた基盤整備

新たな住宅整備の推進と空き家の流動性を高める取組の推進により、住宅ストックを確保し、住宅取得等に関する支援や町の取組をPRすることで、成田空港の機能強化によって生まれる雇用者を取り込み、若い世代の転入者の増加や転出者の抑制を図ります。

重要業績評価指標 (KPI)	● 駅南側地区への新たな住宅建築戸数	5年間で100戸増加
	● 若い世代(0歳~29歳)の構成比	R5 : 18.87% ⇒ R11 : 20%
	● 空き家バンク成約件数	R5 : 4件 ⇒ R11 : 7件
	● アパート建築数(部屋数)	5年間で100室

2. 地元でいながら就職しやすい栄町づくり

(1) 若者の就業機会の確保

矢口工業団地の拡張や広域幹線道路沿道等への企業誘致を推進することで地域内の雇用を創出します。また、成田空港や千葉ニュータウンにおける産業集積地区などの町から通勤圏内の事業者情報を収集・発信することで、若い世代の町への呼び込みと地域の仕事の再認識による若い世代の定着を図ります。

重要業績評価指標 (KPI)	● 空港及び関連企業の雇用数の増加	5年間で250人
	● 求人情報提供企業数	R5 : 89社/年 ⇒ R11 : 80社/年

3. 安食駅を起点とした公共交通ネットワークの形成

(1) 公共交通の維持・改善

町で唯一の鉄道駅である安食駅は南北を自由通路で結んでいるものの、駅構内のバリアフリー化に対応していないなどの課題も生じています。

駅周辺の活性化や魅力向上を図りながら、安食駅を基点とした公共交通ネットワークを形成することによって、利便性の向上による良好な居住環境の創出と地域の足の確保を図ります。



重要業績評価指標 (KPI)	● 安食駅利用者数	R5 : 3,942 人	⇒	R11 : 4,000 人
	● 公共交通利用者数	R5 : 75,082 人	⇒	R11 : 80,000 人

4. 外国人も住みやすい栄町づくり

(1)外国人にも暮らしやすい環境づくり

外国人住民は従来の技能実習に加え、特定技能による在留資格の追加等もあり大幅に増加しており、航空業界の人手不足解消のため、成田空港においても外国籍人材の受入れに向けた取組を行っていることから、暮らしに必要な各種情報を多言語で提供し誰でも住みやすい環境を目指します。

重要業績評価指標 (KPI)	●外国人居住者の増加	R5 : 422人	⇒	R11 (5年間で) 200人増加
	●町内企業で働く外国人労働者数	R5 : 58人	⇒	R11 : 150人

総合戦略4

安全・安心な暮らしを守り未来へ持続する栄町をつくる

1. 町内外から注目される栄町づくり

(1)町のPRの推進

文化芸術、スポーツ、住民活動などと連携した町民が誇れるイベントの開催により、シビックプライドの醸成と町外に向けてのPRを強化します。
また、SNS等の活用により、町の情報を積極的に発信し、地域への理解の促進や移住へ繋がります。



重要業績評価指標 (KPI)	●SNS登録者数	R5 : 9,513人	⇒	R11 : 14,800人
	●HP閲覧者数	R5 : 1,951,294人	⇒	R11 : 2,070,000人

2. いつでも誰でもデジタルの力を活用できる栄町づくり

(1)自治体DXの推進

行政手続きのデジタル化を推進することで、行政手続き等に関する町民の利便性を高めます。

(2)デジタル基盤整備

デジタルデバイドを生み出さないような支援を実施し、行政手続きのデジタル化を進めながら、防災や防犯にも対応するスマートシティを目指します。



重要業績評価指標 (KPI)	●オンライン化された手続きの申請件数	R5 : 27件	⇒	R11 : 35件
	●マイナンバーカード普及率	R5 : 81.2%	⇒	R11 : 95%
	●スマホ教室の受講者数	R5 : 15人	⇒	R11 : 50人

3. 災害に強い栄町づくり

(1)災害支援拠点の整備

町民の安全・安心を守るため、災害時に必要な物資がいきわたり、生活支援機能を発揮するための施設整備を進めます。

(2)自助・共助の取組の推進

非常時に町民自身が命を守る行動を行えるように、平常時から災害の備えについて必要な知識の普及・啓発に努めます。



重要業績評価指標 (KPI)	●防災公園の整備箇所	R5 : 0箇所	⇒	R11 : 2箇所
	●自主防災組織力バース率	R5 : 57.0%	⇒	R11 : 57.0%
	●防災訓練参加者数	R5 : 1,000人	⇒	R11 : 2,200人

千葉県印旛郡栄町
人口ビジョン及び第3次総合戦略

－ 概要版 －

令和7年3月

発行：栄町 総務政策課

〒270-1592

千葉県印旛郡栄町安食台1丁目2番

TEL：0476-95-1111(代)